

高知県 保幼小接続期 実践プラン

やってみよう!保幼小接続 子どもの生活や学びをつなごう!



平成30年2月 高知県教育委員会

スタートカリキュラム

入学に際して、子どもは期待と同時に不安を抱いています。スタートカリキュラムにおいて、幼児期に親しんだ活動を取り入れたり、分かりやすく学びやすい環境づくりをすることで、子どもは安心して小学校での生活をスタートさせることができます。

これまでの経験を通した学びが想起され、子どもが主体的に学習に向かえるような工夫をすることや、体験的な活動を大切に授業の組み立てを考えていきましょう。

スタートカリキュラム 学習の分類

- 一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらった学習
★なかよしタイム
総合的・関連的な指導による生活科を中心とした学習
★いきいきタイム
教科等を中心とした学習
◆ぐんぐんタイム

スタートカリキュラム 4月第1週 記載例

★なかよしタイム ★いきいきタイム ◆ぐんぐんタイム

Table with columns for Day (1-5) and activities like 入学式, 対面式, 朝の会, 生活科, 体育館, 生活科, 園児, 児童, 給食, 掃除, 1年生集団下校.

登校時の環境 1

登校したら、始業まで園生活とあまり変わらない環境を設定する。そうすることで、小学校に入学して少し不安になっている子どもも、園で親しんだ遊びで落ち着いたり、座卓に顔見知りの友達と座って安心したりできる。



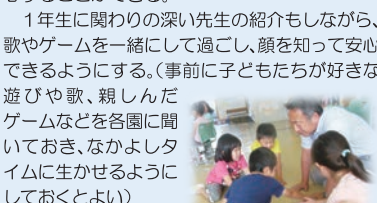
登校時の環境 2

絵や写真等を使いながら分かりやすく簡潔に児童が理解できるようにすることで、活動時間を確保できるようにする。



なかよしタイム

第1週目は、朝の会から『なかよしタイム』を設定し、学年合同やクラスで楽しい活動を取り入れ、ここで、園でなじんだ活動を取り入れ、知っている友達と顔を会わすこと、安心することができる。



歌やゲームで体を動かす授業では、体育館、オープンスペース等を使用することで、活動範囲が広がるようにし、思いきり体を動かせるようにするとよい。

読み聞かせ

保育園でのスタイルと同じように、前に出て聞きたい児童は絵本の近くに集まり、自分の席からの方がよい児童は、椅子に座って聞くようにし、自分で選択できるようにしてみることもできる。



10の姿共有シート

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、保育者と小学校教員とが子どもの成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを理解し、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図っていきましょう。



※高知県保幼小接続期実践プラン P13・P14

①健康な心と体

記載例 1

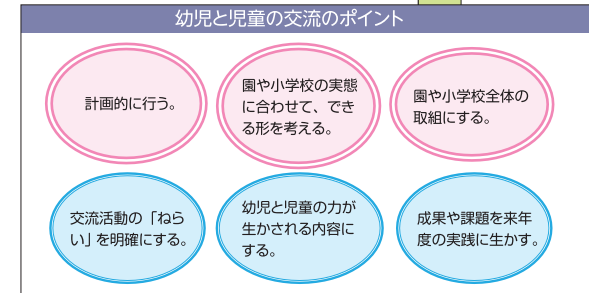
Complex block containing 10 posture examples (1-10) with descriptions of activities and goals for children and staff.

幼児と児童の交流

幼児と児童が交流し、互いの人や物などに関わり、親しみをもつことは、幼児が児童に憧れの気持ちをもったり、小学校生活に期待を寄せることができたり、児童も年下の幼児と接することで自分の成長に気付いたり、思いやりの心を育んだりすることにつながります。

各校区の実態に合わせて計画的に実施するとともに、ねらいを明確にした活動にすることで、交流のよさを子どもが実感できるような互恵性のある活動にしていきましょう。

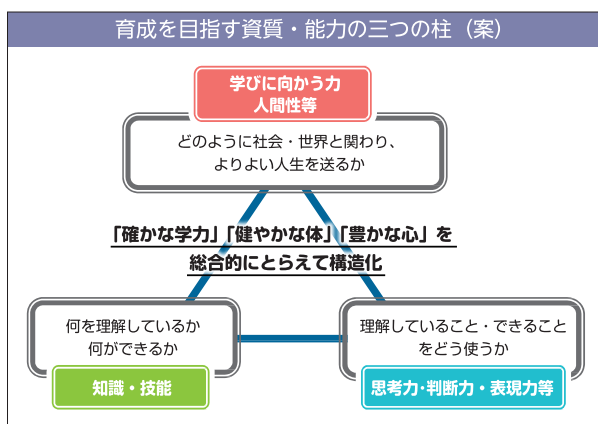
※高知県保幼小接続期実践プラン P36~P38



振り返りのポイント

- ☆幼児と児童の姿は、ねらいを達成していたか。
☆活動内容は、幼児や児童のこれまでの経験や学びを生かして主体的に取り組めるものであったか。
☆保育者と小学校教員の幼児と児童への関わりは適切であったか。
☆実施後に幼児や児童の活動や言動(姿)に変化はあったか。

学校教育全体を通じて育む資質・能力と幼児小中の一貫性



予測の難しいこれからの時代を生き抜くために、受身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を發揮し、豊かな人生と未来社会を切り拓く子どもの育成を目指すことが必要です。そのため、次期学習指導要領等には、子どもたちに育成を目指す資質・能力を左の図のように示しています。

これら育成すべき資質・能力を学校・家庭・地域と共有するとともに、学校教育全体を通じて育むものとしてしています。

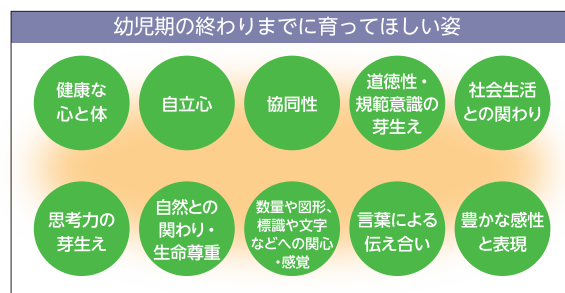
具体的には、保育所・幼稚園等は保育所・幼稚園等で育む資質・能力が小学校以降にどのように育つかを見通すこと、次の小学校では、幼児教育の成果として保育所・幼稚園等で育まれた資質・能力を踏まえて小学校教育をスタートさせることと、加えて小学校で育む資質・能力が中学校以降にどのように育つかを見通すことの両方を求められています。

幼児期の保育・教育と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、保育所・幼稚園等において乳幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、各園の教育及び保育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿です。

実際の指導では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないこと、全ての子どもに同じように見られるものではないことに十分留意する必要があります。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を通して、子どもの育ちの姿を分かりやすく言葉で伝え、幼児期の育ちや学びの成果が次に生かされるようにしていきます。



5歳児後半の年間指導計画 — 10の姿を踏まえた接続カリキュラム —

5歳児後半の年間指導計画を「10の姿を踏まえた接続カリキュラム」として、幼児期の終わりに育ってきている自覚的な学びの芽生えを生かした幼児期の教育を保育者が自覚し、小学校教員との共有ができるようにしました。

各園の年間指導計画の充実を図りながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10の姿を「内容」の欄に記載してみましよう。

様式例	3期 9月～12月	4期 1月～3月
子どもの姿	・各園のこの時期に見せる幼児の姿を書く。	
ねらい	◎各園における教育及び保育において育みたい資質・能力を園児の生活する姿から捉えて書く。 (子どもの内面に育ちつつあることに、保育者の願いを込めて心情・意欲・態度などの育つ方向性を設定する。)	
内容	・ねらいを達成するために、子どもがどのような経験をするよいかを書く。 設定した「内容」に該当する「10の姿」の番号を示し、幼児がどのような経験を重ねながら10の姿の育ちが促されているのかを捉えらるるようにする。	①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量・図形・標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現
環境構成の援助	☆ねらいを達成するために、どのような環境構成をするよいかを書く。 ○構成した環境が、子どもにとって意味あるものとなっていくように、ねらいを達成するために、どのような援助をするよいかを書く。	
保育・安全・健康	・この時期や発達に特に大切にすることを、保育者側が配慮することとして書く。 (別に計画を立てている場合は、不要)	
家庭との連携	・この時期の幼児の発達にとって大切にしたいことを保護者とともに共有していくのか等を書く。	

※高知県保幼小接続期実践プラン P12 資料編 P16～P25

幼児期の教育を通して幼児が経験していることが、小学校教育にどのようにつながるのかのイメージを、5歳児の姿と小学校1年生の姿でまとめました。この他にもつなげて考えることのできる小学校の学習や幼児期の経験があります。ここに示したイメージを参考に、様々なつながりを見つけてください。

幼児期 (5歳児) の姿

時期：5歳児 7月～9月
ねらい：必要感をもって数や文字に触れることを通して、数や文字で表す喜びを味わう。
内容：目的に合った用具や材料に気付き、使ってみる。
育っている野菜の収穫を喜び、数えたり、量ったりしたことを自分なりにかく。

トマト、はかってみよう!

畑で収穫した野菜を数人の園児が保育室に持って入る。
ビニール袋にたくさん入ったミニトマトの袋を持ってA児も入ってくる。
A児：「57こ、はかる、はかる。Bちゃん行くでー」
B児、C児が保育室の奥に行き、秤にミニトマトの入ったビニール袋を置く。
針が約1周回って0の近くを指したのを見て、
D児：「全部おなじや」
B児：「違うで、回ってここまで」
指で0から約1周回って指した針の軌道を示す。
A児：「うん、そうで」
D児：分かったという表情を見せる。「すっげえ、誰よりも重い」
「4と8と0や」自分の分かる方法で針の指した目盛りを読む。



- ・収穫した野菜の数や重さへの興味や関心がある。
- ・秤を使うと重さが量れることを知っており、量ることを楽しんでいる。

《保育者の思いと関わり》

○保育室の壁際に低めの机を配置し、その上に秤と紙 (A4 用紙の半分大)、鉛筆や色鉛筆をいつでも使用できるように置いておく。
○子どもなりのやり方や考えを大事に見守りながら、子ども同士の関わりの中で気付きや学びが促されるようにする。

A児、B児、C児は紙と鉛筆を持って秤のそばに座る。
B児：「57、57こで」ミニトマトの数をA児に伝える。
A児は文字をゆっくり思い起こしながら、紙に『57 ことれたよ』と書く。
C児：「とまとって書いて」A児が書いた文字の下を指して言う。
A児は2段目に『とまと』と書き、自分が書いた文字を見て「ねえ、これ見て！どっちから読んで『とまと』で」と嬉しそうにC児に伝える。
C児はその文字をじっと見つめて頷いた。
A児とB児がその場を離れると、C児は、A児が書いた紙を何度も見ながら文字を書き始めた。

- ・友達や先生に伝えるために、数や重さを数字や文字で表わそうとしている。
- ・見たり聞いたりしたことから、文字や言葉の面白さに気付いている。

《保育者の思いと関わり》

○子どもが必要感をもって数や文字を遊びや生活に取り入れていくことを大切に、数や文字に対する興味や関心が高まるようなモノや人との関わりが生まれるようにする。

※高知県保幼小接続期実践プラン P16～P23

学習内容のつながり

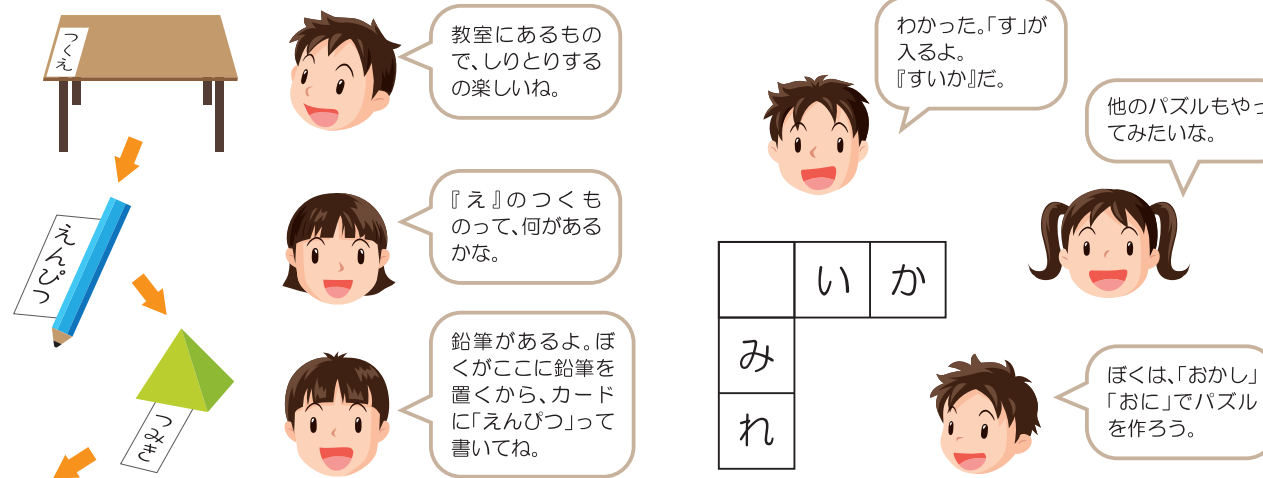
小学生 (1年生) の姿

- 1 教科・単元名 算数「おおきい かす」
- 2 本時の目標 ●学校内にあるものの中から、30より大きい数をさがそう。
- 3 主な学習活動
(1) 学校内にあるものの数探しをする。
(2) 探したものを紹介する。



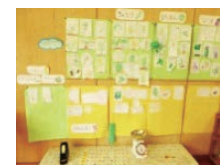
- ・遊びの中で必要感をもって数を数えたりはかかったりした経験や、日常生活の中で数の表示に関心をもった経験など、幼児期に育んだ数に関する感覚を大切にしながら学習を進めるようにする。

- 1 教科・単元名 国語「ことばあそび」
- 2 本時の目標 ●語や文字について関心を高め、ひらがなの読み書きに習熟することができる。
- 3 主な学習活動
(1) 「ものしりとり」を楽しむ。
(2) クロスワードパズルを楽しむ。



- ・ペアや少人数のグループで活動を行うことにより、友達や言葉による伝え合いをしながら楽しく学習を進めるようにする。
- ・次々にクロスワードパズルに挑戦するコースや自分で作るコースなど、児童の探究心や好奇心を引き出すような工夫をする。

経験していること
【数量への関心・感覚をもつ】
【必要感に基づいて調べる】



経験していること

【数字や文字に表す】
【文字や言葉の面白さに気付く】

